

須沢角地遺跡

(糸魚川市須沢大字大坪2667番地ほか)

須沢角地遺跡は、姫川左岸の自然堤防に位置し、標高は3～5mを測ります。北陸新幹線建設に伴い平成19年9月～11月に、新幹線橋脚予定地(2・4～6区)の5地点を発掘調査しました。調査面積の合計は1,055㎡です。

検出遺構は、掘立柱建物や畑作痕と考えられる畝状小溝、土坑などが検出されています。いずれも奈良・平安時代のもと考えられ、微高地となる5～7区で集中する傾向があります。

遺物は、奈良・平安時代の土師器の甕や須恵器の杯が中心で、遺構の密集する5～7区で多く出土しています。またこれらに伴い、製塩土器や土錘、鉄滓など、当遺跡での生活の様子を示す遺物も見つかっています。

当遺跡は昭和62年の調査から、古代北陸道に設置された「滄海駅」の候補地のひとつとして、想定されています。今回の調査では、駅の存在を示す証拠は発見されていません。今後は、検出した遺構や出土遺物を詳細に検討し、古代「滄海駅」との関連を含めて、遺跡の性格を明らかにしていきたいと考えています。

(株みくに考古学研究所 長澤展生)



5区検出遺構

高山東遺跡

(村上市大字仲間町字高山)

高山東遺跡は、丘陵上の斜面に立地し、標高は24～29mを測ります。日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、平成19年5月～6月に調査を実施しました。遺構は土坑やピットなど、30基を検出しました。出土した土器から縄文時代前期中葉と中期前葉の2時期を確認しました。

遺物の中で注目されるのは、土坑(SK20)の底部から正位の状態出土した前期中葉の鉢形土器(写真2)です。深鉢と浅鉢の中間的な器形であることから、鉢形土器としました。口縁部に3単位の小突起が付き、突起の内側に刺突痕が見られます。器面には、半截竹管と呼ばれる竹を縦に割った道具で押し引きながら描いた複数の沈線が見られます。沈線には直線状のものと波状のものがあり、それぞれ横位に施されています。

この鉢形土器は、東北地方を中心に分布する大木2a式土器と考えられ、県内での出土例はほとんどなく、器形全体を知る資料としてたいへん貴重です。

(加藤建設(株) 北村和穂)



写真1 SK20遺物出土状況



写真2 SK20出土土器